

ん？ りゅうけいこく [編集する](#)

2014 年 02 月 08 日 17:41 [友人の友人まで公開](#)

8 view



《写真 1》 わくわく



《写真 2》 おっ!?



《写真 3》 わんちゃんも来れる場所 🐶

正直ですよ、ええ、正直にですよ。

ん!?

と思えてしまったような、そんなお話。。

-----

数年前のヤマケイに魅せられ、ネット上でもすこぶる評判のよかった、念願の雲竜渓谷へ。前日 O さんに

拾ってもらい、出発🚗👉

22:00 横浜某所

25:10-翌 4:30 宇都宮ネットカフェ

(→すき屋 & コンビニ経由)

6:25 雲竜溪谷登山口

【2014.2.2】

登山口。地図上には駐車スペース 2〜3 台と記載されていたが、現状は



この先の林道もえんえんと車だらけ。午後、戻ってきたときの方がもっとひどく、ネットに書かれていた「登山口付近の駐車マナーが悪い」は本当だった。もっと下で規制しないと、たいへんなことになるでしょう。。。



登山口には 2 つのゲートがあるが、左側のゲートが正解。(実は右ゲートを歩いてしまい、15 分ロス👉)

林道の途中から積雪 & アイスバーンが始まり、



アイゼンを装着する。

そして、分岐点。洞門岩の看板があり、小広場になっている。



ここから林道ルート(左)と沢沿いルート(右)に分かれる。多くの登山客が沢沿いルートに向かっていたが、Oさんいわくヤマケイの紹介文が林道ルートだったため、林道ルートを選択してみる。(ちなみに帰りは沢沿いルート。)

両方を歩いてみてわかったのは、どちらのルートも同じ時間くらいなのだが、林道ルート方が安全な半面、若干無駄に高い所まで登り、若干無駄に下らされる、そんな感じ!?



ここが林道の最高点を通過した直後で、沢沿いルートに下り始める場所。洞門岩から 30 分以上の登った後の、ようやくの下りでした。

で、5 分程度下れば、例の沢沿いルートと合流し、



雲竜溪谷入口。

ここで幕営している人もいた。急にここから人が増え、団体パーティーもたくさん👥 まあみなさん見たいものは一緒なんだね。



徒渉も数回あり。(そして見よ、この人の多さ...。)

ここは念のためストックを出してみたが、難なくクリア。

そしてすぐにそれは現れる。



おおっ 🚨

そしてここを登る、



アイスクライマー達。みんなの注目の的！

こちらも見えて、テンションが上がる!! 📶📶📶

この先の道中もそれなりの景観があるが、とりあえず先に行けるところまで行くことにしてみる。

最奥部に辿り着くと、





登ってるー!!

と、これには感動したが、

ん？

いや、待てよ。

本当にここが最奥部なのだろうか...!?

ヤマケイの雑誌や、ネットで見た画像は、もっと迫力を感じたのだが、何かが足りない... 🤔

そこで、毎年雲竜渓谷に来ているという登山客と話をするが、今年は異常なまでの暖冬らしく、本来は氷瀑が岩肌一面を覆っているはずの場所が、このとおり...。

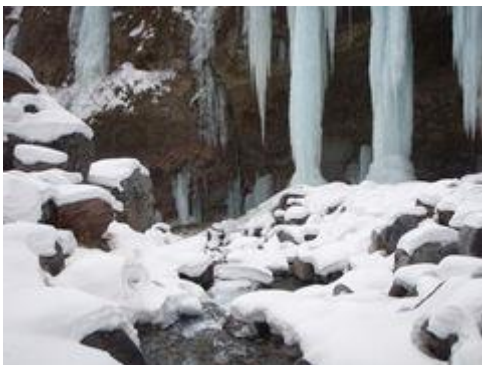


こちらの方は2週間前にも来たそうだが、その時よりも解けているとのこと…。(一応見ごろは1月下旬から2月上旬とされているが。)

あらら👇👇👇

でもやっぱり普段見られない氷瀑を見られたことには感動✨

ここで、腹ごしらえを終え、帰りはゆっくり下る。







すごいいしょ😏

ちなみに、



こんな大きな氷瀑の塊が至る所に落ちていた。確かにこれが頭に当たったときの衝撃はすごいだろうし、ヘルメット装備の人がいるのも納得💯💯

7:00 登山口(右ゲート)

7:08 引き返す

7:15 登山口(左ゲート)

8:05 展望台

8:30-8:35 洞門岩

9:10 雲竜溪谷入口

9:45-10:15 雲竜溪谷最奥部

10:50 雲竜溪谷入口

11:10-11:20 洞門岩

12:15 登山口

-----

 やしおの湯 (¥500)

特筆すべきは、なぜか満車(笑)。

みなさん温泉大好きだね～。

帰りはやしおの湯から山道を走り、新鹿沼駅まで送ってもらう🚗

というわけで、ん？ と思えた一日ではありましたが、コンパクトに収まった山行でした👍

今度は平日、人の少ない時期に来てみたいな～。